

会 議 録

- 1 開催した会議の名称 令和7年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会
- 2 開催日時 令和7年7月30日(水) 13時30分から15時30分まで
- 3 開催場所 佐賀県立九州陶磁文化館 会議室
- 4 出席者 委 員： 今泉委員長、村上副委員長、石井委員、上野委員、蒲地委員、
酒井田委員、中里委員、鍋島委員、松尾(佳)委員、三木委員、
谷上委員、松尾(あ)委員
事務局： 鈴田館長、江副統括副館長、徳永シニア・アドバイザー・フェロー、
大久保企画総務課長、藤原学芸課長、岩永係長、芳野主査、
宮木主査、巖主事、三ヶ島主事
オブザーバー： 文化課 市丸副課長

- 5 議題 (1) 委員長、副委員長の選出について
(2) 九州陶磁文化館の運営について
① 令和6年度事業実績について
② 令和7年度事業計画について
(3) その他

6 会議録

会議の冒頭に鈴田館長から挨拶、委員・職員の紹介をした後、議事に入った。

(1) 委員長、副委員長の選出について

(事務局)

当協議会施行規則第3条に「協議会は、委員の中から委員長及び副委員長1名を選挙しなければならない。」と規定されています。どなたか御推薦はございませんか。

特に推薦がないようでしたら、事務局から、引き続き、委員長に今泉委員、副委員長に村上委員の就任を提案いたします。いかがでしょうか。

(一同拍手)

それでは、委員長に今泉委員、副委員長に村上委員ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

施行規則第3条第2項の規定により議事進行は委員長に行っていただくようになっていきます。どうぞよろしくお願いいたします。

(2) 九州陶磁文化館の運営について

① 令和6年度事業実績について

② 令和7年度事業計画について

(事務局より配布資料に基づいた説明)

(委員長)

ありがとうございました。ただいまの事務局の説明に対して、皆さんからご意見ご質問をお受けしたいと思います。挙手のうえ発言をお願いいたします。

(委員)

九州陶磁文化館で、個人での展覧会もできるということをPRされていますか。

令和6年度は江口勝美さん、令和7年度は溝上和政さんの展覧会を受けられていますが、何か決まりがありますか。

(事務局)

当館からPRやアプローチしているわけではなく、ご本人からの希望ということで承っています。展示室の空いている期間で調整しますが、希望される日程が他の展覧会と重なっている場合は、待っていただいたりもしています。今後もこうした個人の方のご希望があれば対応していきたいと考えています。

ただし、個人が主催者になるケースはなく、通常、実行委員会形式で開催されており、また、当館で開催する内容かどうか、検討したうえで開催してもらっています。当館では作品の販売ができない、期間中は主催者に在館してもらうという条件もありますので、個人での開催は難しいところもあります。

(委員)

昨年度の協議会で、自分のスマートフォンなどで見ることができる詳しい展示の解説があるとよりわかりやすいのではという意見を申し上げたところ、早速、昨年度の特別企画展で、ポケット学芸員というアプリケーションを使ってスマートフォンで解説を見ることができて展覧会を十分に楽しめました。対応ありがとうございました。多言語だったかどうかはわかりませんが、今はスマートフォンにも翻訳機能がありますので、解説があった方が楽しめると思います。

(委員)

トピックスのところで、館収蔵の「鉄絵蒲公英文茶碗」が今年の5月に県重要文化財に指定されたという説明がありました。唐津焼では前回の「玄海」と合わせて2点目ですね。県文化財指定になるまでの経緯はどういう内容でしょうか。

(事務局)

県文化財審議会の中で、部会ごとに保存と継承の重要性が高いものから、また、バランスなどを考慮して選考されます。審議会事務局が部会の先生方からのヒアリングなどを通して、候補を選定し、審議会に諮ったうえで答申されます。

今回の「鉄絵蒲公英文茶碗」も当館からの推薦でなく、あくまで審議会からの提案です。

(委員)

こちらから推薦してもいいのでしょうか。

(事務局)

まずは、ナンバー1であるというのが基準だと思います。個人所蔵の場合、ずっと所蔵される場合ばかりではありません。仮にどこかに販売してしまって、県外に出てしまったら解除になります。

(委員)

昨年度、子供たちに動画撮影等でアピールしたらどうかという提案をさせていただきました。昨年春に子供たちと来館した際、子供たちは第一展示室の「MY ARITA」というデジタルで絵付けが体験できるところが一番喜びました。興味を持って自分たちでデザインして、それを写真撮って親に報告するというのをさせてもらいました。

今年の夏休みのイベントについても、子供たちにどれに参加したいかをアンケートを行ったところ、一番人気は「やきもので写真立てを飾ろう」でした。2位が「有田焼で箸置きをつくろう」で、3位が「うちわをつくろう」と「やきものクイズ」が人気でした。子どもたちの純粋な意見ですので、もしお役に立てるなら、参考にしていただけると助かります。

(委員長)

夏のイベントについて、夏休みが始まって間もないですが、有田町内に全戸配布された影響はどうか。

(事務局)

始まったばかりですが結構にぎわっています。今年の傾向としては、ひとつのワークショップだけでなく、ひとつ終わったら別のワークショップをやってみようという感じで結構長く滞在して、いろんなワークショップを楽しんでいただいているようです。

(委員)

入館者数のグラフで外国人が増えてきているということですが、年代はどのようになっていますか。

若い学生の対応をしているのですが、どのくらいの学生がやきものに興味を持っているのかもしくは日々やきものを使っているのかと考えさせられる機会があります。

先ほどのお話の中にもありましたが、子どもたちのイベントがありますが、それを次の世代につなげていくようなシステム、教育がつながっていければいいなと思っています。

(事務局)

年代につきましては、細かいデータはとっていないので分析はできていません。一般的に50代以上の方が多いと思います。当館の入館者はやはり年齢層が高いのですが、それで思うのは、日本の伝統的な文化の継承を今後どうやって関心を持ってつなげていくかについて常に問題意識を持っています。

伝統文化の普及には皆さん苦勞されていると思いますが、そのあたりについて、工夫とか現状はどうか聞かせていただけますか。

(委員)

先ほどからの説明を聞いていて、なんて素晴らしいのだらうと思いました。こんなに館の中で分析して、いろいろな意見を取り入れて進化していこうとしている博物館が他にあるのでしょうか。

個人的にはこちらの博物館は素晴らしく大好きなので、県外からのお客様が見えになる

時は必ず案内させていただいています。

以前こちらで茶会をさせていただいていたのですが、今もそれは可能でしょうか。と申しますのは、美術館等ではほとんど開催できなくなっています。博物館でも館内ではできなくて、屋外しかできなくなっています。愛知県陶磁美術館では、ホールの中で茶会ができます。常滑では、茶道が煎茶道で、常滑焼によくあうので可能です。虫対策等で以前はよかったけど今は虫が入ると大変なので開催できないということです。名護屋城博物館は、2階に展示室があって、黄金の茶室があり、利用することができました。

（事務局）

当館は第5展示室に茶室があり、以前は生け花や茶の湯も開催していました。しかし、文化財保護の観点から虫対策等が必要になりハードルが高くなってきました。

最近、茶会で利用したいという相談がありました、秋の特別企画展の期間と重なるので難しいということでお断りしました。

特に近年、収蔵品の保全対策が、厳しくなっています。大きな方向性としては、展示室とその近辺で生ものを取り扱うことが非常に難しくなっています。

（委員）

茶室では、以前、井上萬二先生の作品を使って茶会を開催させていただいたこともあります。やはり作品に触れることができ、実際に使えるというのは素晴らしい日本の文化の一つだと思います。ほかの国で、作品を使ってお茶をいれる楽しさを味わうってことはなかなかないと思いますので、機会があれば、そのような会を開催したほうがよいと思います。

（委員長）

定期的に来観者等にお茶を振る舞いますということがあったら魅力的で足を運ぼうかなということになると思います。

お茶の伝統文化を若い人に継承する工夫があれば教えてください。

（委員）

文化庁が推奨してくださる夏の子ども煎茶教室を行っています。夏休みに3日間通して、幼稚園児から大学生まで参加していただいて煎茶をしています。最終日には、子供たちがお点前をしてご家族の方にお茶やお菓子を振る舞うという教室を10年続けています。最初始めた頃は、小学生だった方が高校生や大学生になって、下の方を教えてくださいっています。

伝統文化を繋げていくのは大事だなと実感しています。正座ができなかったり、ペットボトルでしかお茶を飲んだことがないという子供たりがたくさんいます。おうちに急須がなかったり、お茶の葉はどこで買ったらいいですかと聞かれたりします。本当にそんな時代なのです。煎茶教室では、子供たちが自分たちでお茶の葉を急須を使って、ペットボトルでなく、お湯のみでいただくということ体験する。そうすると、幼稚園児が最初は暴れまくっていたのが、湯呑でお茶を飲んで、一人前に「誰々ちゃんのお茶がおいしかった。こっちのお茶の味が好き。」と、お茶の産地で味が違うことなども分かって話をしてきます。子供たちの力というのは侮れません。

(委員)

やきものも次の世代へ、有田へ来て学べてよかったと文化・歴史を継承していく機会が身近にあったらいいと思います。

(委員)

街づくりの活動をしており、内山地区に事務所もあります。そこでお店をされている方々達と一緒に内山地区のあり方について考えています。

最近、外国人の観光客がすごく増えてきたと感じています。きっと九州陶磁文化館を訪問された外国人も中にも来られているのかなと思っています。内山地区もちゃんと周遊してもらうような仕組みを作っていきたいなと常に考えています。九州陶磁文化館とも連動して、何かルートができるといいのかなと思っています。九州陶磁文化館を中心として、内山地区や有田の窯元やほかの窯業産地にも足を運んでもらえるように、映像などを使って分かりやすいルートが示せるといいのかなと思います。

あとは、子供のワークショップは結構見かけますが、大人に対する教育というのも何かできたらいいのかなと思っています。やはり子供は学校だけではなくて、家庭の環境などに影響されます。子供の頃に、家には焼き物がたくさんあって、お気に入りを使っていた焼き物があったりして、九州の磁器の文化に触れていたのも、興味をもつこともあります。なので、親御さんたちにまずは興味を持ってもらって、そういう方たちが友達を誘って、ワークショップなどに参加してみようという方がもっと増えるのではないかと思います。

また、観光客だけではなく、住民の方たちも気軽に九州陶磁文化館に足を運んでほしいと思います。私も住んでいながら知らなかったこともあるので、興味をもってもらえば住民の方たちも来てもらえるのかなと思います。

(委員)

アリタセラはマシュマロクリスマスをやるようになってから、格段に若い方たちが増えています。アリタセラの存在を知って確実に世代交代が行われてきたかなと思っています。

そうした時に子供たちが楽しめているかということとそうでもないということもあり、夏祭りを開催したりしています。今後も様々な世代が楽しめるようアリタセラ全体の存在価値を高めていきたいと思っています。

(事務局)

九州陶磁文化館を観光地拠点にして、九州陶磁文化館を起点に様々なエリアを周遊するためのハブ機能を期待されています。まだ、そういう機能は発揮できていませんが、うまく連携して、内山地区、アリタセラ、その他のスポットを点でなく面で盛り上げていくのが一番理想だと思います。

(委員)

インバウンドの増加は、私たちが思っている以上にすごいスピードで進行しています。これからもっと増えていきます。ひとつの例として、佐賀空港の台湾便は週 1 便でしたが、搭乗率が 95%もあったので、4 月から週 2 便になりました。それでも 95%前後の搭乗率になっています。韓国からの観光客が一番多いのですが、中国や東南アジアからもたくさんの方に来ていただいています。

九州陶磁文化館という九州で唯一のやきもの専門の公設施設があるということをどのように宣伝していくのか。やはり、県と市町が連携して情報発信をしないと九州陶磁文化館単体では難しいと思います。言うまでもなく、世界に冠たる有田ですから、本当に自信を持って、宣伝ができると思います。旅行関係の人たちなどいろんなところと連携して宣伝していくことで、佐賀県の有田というところに素晴らしい施設があるということが認知されていくのだと思います。地道にやっていけば徐々に増えると思います。そういう自信を持った取組をぜひ有田町の方には実施していただきたいと思います。

それと、有田工業高校の卒業制作展は、今年で第 57 回と半世紀以上続いているすばらしい取り組みだと思います。非常によい取組なので、全県下からの高校にも呼びかけて開催するというのも意義があるのではないかと思います。県内の高等学校には美術部があります。このような企画展をいろんな形でやっていただくことによって、子供たちが自分の生まれ育った産地は素晴らしいのだ、世界一の産地なのだということを再認識するのではないかと思います。そういう取組が伝統産地継承にも繋がっていくのではないかと思います。

(委員)

子供たちが文化に触れる機会というのは、小学校の頃に行う焼き物づくり体験です。中学校には窯はないですが、去年の授業で、一年生に伝統文様を教える授業がありました。伝統文様の中に今流行っている鬼滅の刃に書かれている模様があたりして、それらを使って興味をもってもらい伝統模様を教えることがありました。もっと地域と関わる授業がもてたらいなと思っています。

有田中学校には窯業に携わっている家庭が結構多くて、そこに職場体験で友達と一緒に参加したりとか、いろいろ地域にかかわるきっかけがあるのだなと思ったところでした。そういう関わりを増やしていきたいと思っています。

(事務局)

伝統と歴史を引き継ぐ方法というのが今日のテーマのひとつになっていますが、有田町歴史民俗資料館では、子供向けに川でベンジャラを探そうという体験をされています。子供たちにとって素晴らしい経験になると思います。子供の教育の一環になっていますので、その取り組みを教えてください。伝統と歴史を引き継ぐ方法として今日のテーマの一つに。

(委員)

夏休みに子供たちに有田の歴史を身近に感じてもらうということで実施しています。川の中から古いやきものの陶片ベンジャラを探そうと、毎年10人程度募集しますが、すぐに埋まってしまいます。結構人気があります。やはり有田でないと体験できないというのが魅力だと思います。この地域の特徴を肌で感じるできるので非常によい体験だと思っています。

子供たちは、川の中に入る前に、陶片について学芸員から歴史の解説を聞き、実際に川に入って陶片を探します。毎年バージョンアップしていて、今は点数制になっています。より古い年代のものを探したら高得点になります。拾った陶片を学芸員が鑑定し得点をつけます。拾った陶片は貴重な文化財なので持ち帰ることはできませんが、後日、採集記録を展示しています。古いものを見つけたほど点数が上がる。江戸前期があると点数が上がる。こういうものを拾ってくださいと古陶磁の解説を事前に少しやっていますので、子供たちのベンジャラを見る目は、完全に素人の域を超えています。小学生が採集したベンジャラの中には学術的にも貴重なものがあつたりします。一緒に来られている親も楽しめる企画です。

実際に川に落ちているもの、暮らしの中にあるものが、歴史的に貴重なものであるというのは有田だからできることだと思います。

(委員)

例えば、九州陶磁文化館で、柴田夫妻コレクションの作品等を見て勉強してもらおう。そして、それから、それらの作品がどのようにして製作されたのかを実際に窯元に行って、制作工程や技術を学ぶことができるようなことをセットで実施していくと、わかりやすく、しかも大変興味をもっていただけるとは思いますが、こういうツアーは可能でしょうか。

(事務局)

完成された素晴らしい美術品として見るだけでは勿体ないですね。その作品はどのようにして作られているのかということを知ること、さらにその作品の価値を深く理解することができると思います。そういう仕組みを作って点と点を結び付けて面で価値を伝えていくということが大事だと思います。

(委員)

九州陶磁文化館を文化観光の拠点にするというのは、非常によいことだと思います。まずは九州陶磁文化館に来て、そこから例えば、磁器に興味を持った人は窯元に行ったり、アリタセラに行っていただく。これからはインバウンドも増えてきますので、文化に興味を持つインバウンドや、アッパー層向けの旅行プログラムも作っていきたいと思います。

以前から有田駅からの九州陶磁文化館までのアプローチが課題として上がっていました

が、民間の力をお借りしながら、ようやく空き店舗がなくなってきて、元気がでてきましたので 今後しっかり有田駅から九州陶磁文化館までのアプローチをつなげていきたいと思っています。

また、2030 年が九州陶磁文化館の 50 周年ですが、その前年の 2029 年は有田とマイセンの交流 50 周年になります。トピックスでオランダとの交流を紹介していただきました。マイセンとの交流は民間主体の交流です。よって、なかなかそういう文化交流というのができていないので、佐賀県の力を借りながら、マイセンとも協力して何らかの形で 50 周年イベントや 50 周年記念イベントを開催できればいいなと思っています。

(委員)

5 月に佐賀県茶道連合会の合同茶会がありまして、普段は有田焼を使っていますが、その時はあのマイセンを使いました。デルフト焼を使ったこともあります。茶会では、有田焼もマイセンもデルフトも使いますので、記念イベントでは、ぜひ茶会も検討をお願いします。

(委員長)

ありがとうございます。他に何かこれだけはしておきたいというのがありますでしょうか。

(事務局)

昨年から変更しましたが、この協議会の資料について、今までは入館者数のみで他館との比較をしていましたが、入館者数より収蔵品数や収蔵品の価値、寄贈率などを強調するようにしました。収蔵品数は、関係者の方々今までの積み重ねてきた力で、その評価額は他館と比較して断トツで 1 位です。外国人入館者数の割合も一番です。他館と同様、当館も中国やアジア系の方が多い傾向にありますが、当館は欧米系の方が非常に多いというのが特徴です。

(委員長)

他に何かありますか

(委員)

有田焼 400 年事業の時にユージアムアリタというレストランが九州陶磁文化館のアプローチデッキで運営されていたと思います。

普段使えない器で食事をすることができるっていう体験っていうのは本当に有田ならではの。私も 2~3 回ぐらい足を運んで、非常に楽しかった記憶があります。そういう食を通して器がどうできているかどうい歴史がそこにあるかみたいなことを学ぶということが非常によかったなと思います。もちろん収蔵されているものを使用することはでき

ないことでしょうけど、そのような取組で九州陶磁文化館での滞在時間がもっと長くなるような、そういう仕組みがあってもいいのかなと感じました。

(事務局)

現在、ミュージアムカフェが運営事業者の更新のタイミングになっていまして、空間のリニューアルを含め検討しているところです。有田焼400年事業で使用した器も当館で保管しておりますので、それらを使ったものとか、あとは海外の方も増えていますので、海外のお客様もストレスなくご利用いただけるミュージアムカフェをオープンできるように準備を進めています。

(3) その他

(委員長)

議題3のその他となっていますが、事務局で何か予定がありますでしょうか？

(事務局)

その他の議題はありません。

案内：「開館45周年記念 特別企画展 初期伊万里ビックバン-日本磁器の始まりの全貌-」
「子ども向け夏休みイベント」

(委員長)

ありがとうございます。それではこれで提案されている議題については審議を終了いたします。本日の皆さんからいただいたご意見を今後の運営等に活かされることを期待しております。ご協力ありがとうございました。

(事務局)

以上を持ちまして、令和7年度佐賀県立九州陶磁文化館協議会を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。